

## 保健体育科学習指導案

平成30年8月31日(木) 第5校時 体育館

授業学級 3年A,C組(40名)

授業者 指導教諭

1 単元名 「空間を生かして4on3のバスケットボールをしよう」(バスケットボール・3年)

2 主眼

フリーでゴール下にボールを運ぶ方法を追究する場面で、パスの受け手の体の向きや味方がパスを出す場所に着目し、エリア侵入ゲームをすることを通して、受け手はゴール下の空間にゴールに体の正面を向けて走りこむこと、出し手はゴール下の空間にパスを出すことができる。

3 本時の位置 (全8時間中 第4時)

前時: パスを受けた後、素早く動くことができる。

次時: 本時で学んだことを活かして4on3のメインゲームを行う。

4 指導上の留意点

・水分補給をしっかりと促す。

5 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応(太字はキーワード)	◆学習内容◇教師の指導・援助	時間	備考
はじめ	1 シュートとパスの練習方法を提示する。	ア シュートの練習をしたい。 イ パスされたボールをキャッチすることが苦手なので練習できる。 エ フリーの状態でゴール下でパスを受けることができなかった。	◆授業の初めに行うシュート練習とパス練習のやり方を説明し、技術の改善ができるようにする。  ◇ワークシートから前回の課題を取り上げて発表させる。	15分	バスケットボール、タイマー   得点版 ビブス
	2 前時の振り返りをし、学習課題を確認し、学習課題を設定する。	学習問題: フリーでゴール下の空間にボールを運ぶにはどうしたらいいだろう。  オ パスの出し手は人がいないゴール下の空間にパスしている。 カ パスの受け手はゴール下のフリーになれる空間に走りこんでいる。 キ 体の正面がゴールの方を向いてパスを受けている。	◇ICT(1時限時に撮影した生徒による模範のビデオ)を活用し、パスの受け手が「どんなふう動いているか」「体の向きはどうなっているか」、出し手が「どこに出しているか」を生徒たちに考えさせる。	10分	
	3 本時の振り返りをし、次時の見通しをもつ。	学習課題: パスの受け手の体の向きや味方がパスを出す場所に着目し、エリア侵入ゲームをしよう。  ク 自分にマークがついていないときは、ドリブルをし、自分にマークがついているときは味方にパスをすれば良いことを思い出し攻撃。 キ フリーの人を見付けパスを回せば、ゴール下のエリアに上手く侵入することができそうだ。 ク フリー人がエリアに走り込めば、簡単にゴール下のエリア内でパスをもらうことができた。 ケ ディフェンスの付いていないフリーの人を見付けられるようになってきた。 コ ディフェンスの動きによって自分がどう動くか半断し、ディフェンスがいない空間に走り込んだりパスを出したりすれば、簡単にエリアに侵入できた。 サ 次回は、攻撃が一人多いということは絶対に誰かがフリーになることに注目し、空間を使った攻撃を考え、実践していきたい。	◇エリア侵入ゲームの説明を行う。 ◆エリア侵入ゲームを理解し、前後半2分のゲームを2セット行う。 ◇前時の3on2のゲームで学んだディフェンスやゴールとの位置関係に応じた状況判断を生かしさらに空間を見付けながら動き、ゴール下までボールを進められるよう声かけをする。 ◇ゴール下にボールを運ぶ際に体の向きはゴールに向いているかを問う。 ◆空間を作り出したり空間に走り込んだりする、空間を生かした攻撃について理解する。 ◇ディフェンスがマークをしていない状況=フリーの状態相手チームがいない空間に走りこむ攻撃方法を習得する。 ◆エリア侵入ゲームで学んだことや疑問に思ったこと、個人やチームの課題などをワークシートに振り返る。 ◇新たに見つけた課題を取り上げ全体に共有し、次時への意欲付けをする。	15分  10分	